



元気っ子

No.234 ながさわ保育園

平成 29 年 2 月号

園 長 市 川 温 予

平成28年度のおゆうぎ会も無事に終わり、子ども達も先生達もほっとした表情、達成感がみられます。保護者の皆様には、朝早くから文化会館前に並んでいただいたり、いろいろとご協力をいただきありがとうございました。また、心温まる感想をたくさんいただき、私達にとって嬉しく、とても励みになりました。

さて、大きな行事、おゆうぎ会を終えた子ども達は一人ひとりがひとまわりもふたまわりも成長したように思います。大きな舞台でたくさんの観客の方の前で演じたり、踊ったり、歌ったりと本当に子ども達の力は無限だとつくづく感じました。うさぎ組(2歳児)のなんともいえない可愛らしさ、余裕のある笑顔、みんなが上手に踊れてほんとは見ていると微笑ましかったです。また、異年齢クラスのダンスや劇は、大きい子も小さい子もお互いに支え合っているのがよくわかり、そんな姿を見ていると「一年前はこんな姿だったのに…」「4月は泣いていたのに…」など一人ひとりのことが思い出され、本当に成長したなと思うと同時に胸が熱くなりました。

ダンスにしても劇にしても大人に言われ、強制的にやらされているのではなく、やりたいと思ったものを選んで(自己決定)ので、どの子も生き生きしていました。舞台上で演じ、帰ってきたある子が「あー。緊張したー。」と言うと、「でもめっちゃ上手やったやん。」と年長さんが声をかけていました。こうして毎日の生活を共にしている仲間だからこそお互いに信頼しあい、声を掛け合ったり、助け合ったりできるんだと子ども達の姿を通して改めて感じました。

毎年私は、陰マイクを担当するので、子ども達が舞台上でいる瞬間、舞台上で演じている時、舞台から帰ってきた時の顔(表情)や言葉を見たり聞いたりします。まだまだ自分のことで精一杯だと思いますが、5歳児、4歳児は小さい子を気遣ってあげることができる子が多く、そんな姿を目にすると涙が出てきます。子ども同士の育ち合いの場面をいくつか見ることができました。一人ひとりが周りの友達から大事にされている、ほめてもらったり、認めてもらったりと肯定的に見られているという感覚をもつということが大切なことだと思います。お互いにほめ合ったり、先生達にほめてもらったり、またお家の方にほめられることが子ども達にとっては最高の瞬間だと思います。ほめられ体験、認められることによって子ども達の心は成長していくのだと思います。

いろんな年齢が混ざって生活することで、いろんな人間関係のトレーニングができ、これから生きていく上で必ずプラスになると私は信じています。

これからもみんなの心がゆったりと、楽しく、のびのびと過ごせたらいいなあと思っています。